

2024年度入学(学籍番号24B) 学生各位

2024年7月

外国語事務室 第二外国語

## ～2025年度開講、第二外国語「選択必修科目」 の履修について～

第二外国語は「選択必修科目」の4単位を修得する必要があります。

まずは、2025年度第1Q・2Qに開講される、第二外国語「初級1・初級2」(選択必修科目)について、どの言語を履修するか、事前に教務Webシステムで言語の選択をします。

選択した言語を2025年度1Q・2Qに「初級1・初級2」と続けて履修し、2単位修得します。

「初級1・初級2」は必ず1セットで履修します。

ドイツ語、フランス語、中国語、ロシア語、スペイン語の中から1つの言語を選択してください。

未回答の場合は、自動的にいずれかの言語に振り分けされます。必ず回答してください。

期間中であれば、回答の変更が可能です。

**※ 選択した言語の変更は不可。選択した言語を必ず履修します。**

**言語の選択回答期間：2024年7月23日(火)～8月16日(金)**

<今後の予定>

2025年1月下旬

言語決定の案内

2025年4月上旬

クラスの通知

2025年7月中旬(※)

2回目の選択回答(残り2単位の履修について※)

※ 2025年度前学期に2回目の選択回答を行います。第二外国語選択必修科目を

- ①1言語のみで4単位修得するか、②2言語で2単位ずつ計4単位修得する(再来年度第1Q・2Qに今回選択する言語とは別の言語を選択・履修)か、を選択します。

※リベラルアーツ研究教育院外国語セクションのホームページでも確認できます。

<第二外国語履修案内>

[https://www.fl.ila.titech.ac.jp/pdf/2024\\_2ndLanguages\\_information.pdf](https://www.fl.ila.titech.ac.jp/pdf/2024_2ndLanguages_information.pdf)

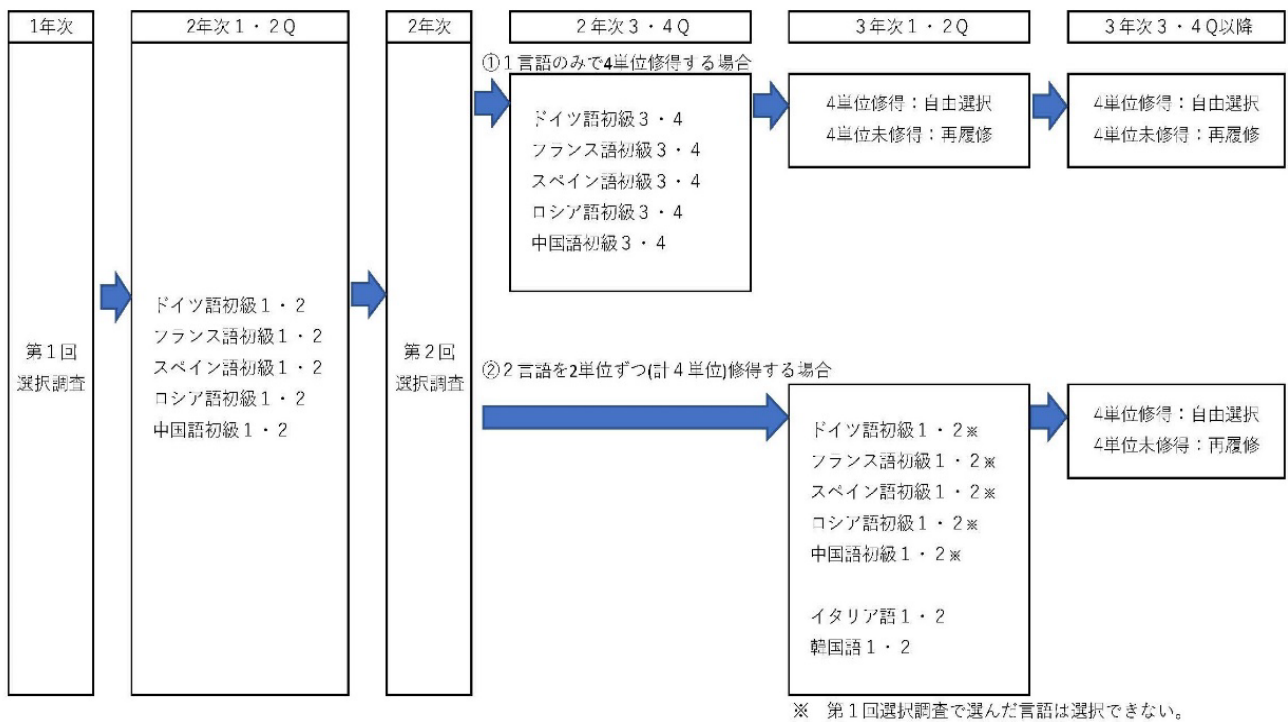


裏面へ

<注意事項>

- ※ 選択調査で回答した言語を履修登録しなかった場合や、単位を修得できなかった場合は、翌年度以降に再履修が必要です。なお、その場合も言語の変更は出来ません。
- ※ 留学生は母語を選択することは出来ません。
- ※ 本調査においてGSEP所属の学生は対象外です。
- ※ 第二外国語科目が認定されている学生や、第二外国語を修得しない学生(留学生)は、[6その他]を選択してください。
- ※ 2025年度第1Q・2Q に2つの言語を履修し、それをもって必修4単位とすることはできません。1年間継続して一つの言語を履修するか、2025年度に一言語2単位を履修した上で、次年度第1Q・2Q に別言語の2単位を履修します。

<第二外国語必修4単位の履修方法フローチャート>



<第二外国語科目(言語)紹介>

[https://www.fl.ila.titech.ac.jp/2nd\\_languages.html](https://www.fl.ila.titech.ac.jp/2nd_languages.html)



<問い合わせ>

外国語事務室：西3号館8階805 平日9:30~16:15

第二外国語担当：2gojim\_at\_fl.ila.titech.ac.jp (\_at\_を@に置き換え)

# 言語紹介

## ～ドイツ語～

ドイツ語の響きを聞いたことはありますか？ <sup>グーテン モルゲン ダンケ</sup> Guten Morgen! Danke! ローマ字読みが多く発音しやすく、でも聞きなれない音も（英語にない文字も4つ）混じっています。ドイツ語はドイツ、オーストリア、スイス等で話されるインド・ヨーロッパ語族の言語。文法・単語は英語と似ていますが違う所も多く、この言語にはどんな法則があるのだろうか？と考えているうちに、言葉の仕組みの面白さに気づかされます。ドイツ語圏はヨーロッパ西部・東部をむすび、歴史の鍵となる場面の多い土地です。ユダヤの文化・人によって育まれてきた豊かさも深遠です。ドイツの国家・教育・社会制度、科学技術を吸収して日本の近代化が進められたのはご存じのとおりですが、いま・これからの私たちはヨーロッパとどんな対話ができるでしょう。ドイツ語を知ることでじかに自分で触れられる宝が、大学の中にも外にも広がっています。音楽、哲学、文学、スポーツ、建築、都市計画、様々な分野へ。初級で発音・文の法則を学び、中級・上級で生のテキストを読み解きます。セミナーでネイティブの先生と会話しましょう。ドイツ語の世界へようこそ。

## ～フランス語～

フランス語はラテン系の言語で、イタリア語、スペイン語、ポルトガル語などと兄弟関係にあり、英語にも大きな影響を与えています。英語の隆盛以前にヨーロッパの外交語だった伝統は今も根強く、国連などの国際機関、オリンピックなどの国際行事で、英語につぐ公用語とされています。またフランス語圏の広がり大きく、英語についで2番目に多くの国・地域で公用語にもなっています。フランス人はこの言葉を美しく磨き上げ、「明晰でないものはフランス語ではない」と誇るほど洗練させました。文学・芸術の国フランスは、同時に先端的な科学研究も盛んです。週1回の初級授業では、その豊かな世界の入り口までしか紹介できませんが、希望者はさらに中級、上級、会話、文化演習クラスに進んでください。フランス語圏の名門校との交換留学、フランス政府給費留学なども夢ではなくなるでしょう。初級クラスでは、外国語が苦手な人でも楽しみながら学べるよう、基礎的な発音練習から始め、生きたコミュニケーションに触れていきます。

## ～ロシア語～

ウクライナ侵攻が始まって以来、ロシアという国の印象はすっかり悪くなってしまいました。ただし、ロシア語はウクライナやベラルーシ、バルト三国、そして中央アジアなど、ロシアの周辺諸国で広く使用されています。今後東ヨーロッパとユーラシアの情勢は大きく変化することが予想され、その時にロシア語はますます重要な言語になると言えます。音楽や文学などの芸術文化のみならず、宇宙開発に代表される科学技術、寒冷地に特有の珍しい植生やマンモス、独特な鉱物や地質など自然科学の分野でもロシアには豊かな財産があります。実際に周期表を発見したメンデレーエフのような偉大な科学者を多数輩出してきました。ロシア語は独特な文字を持ち、英語や日本語とも異なる文法と発想を持っています。それゆえ難しいと感じるかもしれませんが、論理的な思考に強い理系の学生にとっては面白い言語でもあります。ただし、ロシア語そのものは難しいですが、単位を取るのは他の言語より厳しい、ということはありませんので、その点は安心して選択してください。

## ～中国語～

悠久の歴史、広い国土、そして十四億の人口を持つ中国。そんな中国は今、さまざまな問題を抱えながら高度経済成長を続け、これまでにない存在感を示しています。そして、グローバル化の下で、日本をはじめとする近隣諸国との間に摩擦を起しながらも伝統とはまた違う新たな経済、文化圏を形成しつつあります。日々話題に欠かせない、さまざまな顔を見せている、近くて遠い国——中国をどう理解し、どう把握するのかは日本にとってもはや避けられない大きな課題の一つとなっています。

中国語を習うことは、中国の歴史、文化、またそのさまざまな現実を知る第一歩でしょう。中国語は世界で母語人口のもっとも多い言語であり、中国大陸のほか、台湾、香港、そしてシンガポールなど一部の東南アジアの国でも公用語とされています。東工大は、清華大学との間に大学院共同プログラムを持つほか、中国の多数の名門校と学術交流協定を結んでいます。そういう国際交流に参加するためにも中国語は役に立つことでしょう。

発音は難しいと言われていますが、馴染み深い漢字やシンプルな文法表現など、初心者にも習得しやすいです。初級では、丁寧な発音トレーニングを心がけながら、東工大生を想定した独自の教材を使い、一年間で基本文法をマスターさせ、大学生生活上の日常会話ができるまでを目標にしています。初級以上の各科目では、履修者のレベルに合わせ、より実践的なレッスンを展開しています。

## ～スペイン語～

スペイン語はラテンアメリカとカリブの多くの国々（ブラジルはポルトガル語）、そしてもちろんスペインで話されているほか、スペイン語圏出身の移民の多いアメリカ合衆国でも話せるととても便利な言語です。また、アジアでもスペイン語の影響を受けている言語があります。（フィリピン語などですが、日本語にも「南蛮渡来」の単語がいくつも残っています。）単純に広い地域で多くの人々に話されているのに加え、音楽や映画などの文化の世界でも、そしてサッカーをはじめとするスポーツの世界でも、重要な言語ですし、さらには、ヨーロッパ言語の源流ともいえるラテン語に比較的近いため、ラテン語の語彙や文法に触れる機会も与えてくれます。発音が日本語に比較的近いなど、とっつきやすいのは確かですが、動詞が常に変化するなど、「簡単と聞いたのにだまされた」と思ってしまう学生さんもいます（どんな言語だってちゃんとやるのは難しいです）。カリキュラムは文法を「理解」してもらうことを重視していて、スペイン語圏の文化や社会についても学んでもらえるよう心がけています。（会話などの実践については選択クラスへどうぞ。）いろいろと授業のやり方も工夫もしているので、そのあたりについて、より詳しいことを知りたい方は、こちらのQRコードからどうぞ。

